

自由之理

二下



議論ノ自由ヲ好マザル人ハ、コノ上ニイヘル如キ思想ノ盛ナラン一ヲ防ガントテ、説ヲ立テカク言フベシ。曰ク、通常ノ人ハ、タツツノ執ルトコロノ意見ヲ信ジテ事足り。他ノ理學者神學者ニテ、或ハワガ方ノ意見ニ與シ、或ヒハワガ方ノ意見ニ敵スルモノアリトモ、コレ等ヲ知ルヲ要セズ。理會スルヲ要セズ。通常ノ人ニ向ヒテ、ソノ對敵ノ黨ニテ論説スル謬誤ヲ言露スハ無益ナル事ナリ。誰ニテモ衆人ノ中ニ、能ク吾ガ教道ノ根株ニ達シ、四面敵ヲ受ケ、應答響ノ如キモノ、アラシニハ、ソレニテ事足ヌベシ。コノ人ハ、特ニ教道ニ習熟シ、真理ノ原由ニ推溯シタレバ、ソノ他衆人ハコノ人ニ依頼シ、ソノ説ヲ以テ定規トシ、固ク信ジテ

自由之理第二卷

三十二

疑ハザルベシ。モシ對敵ノ黨ヨリ問難駁議ノ發リ來ラン時ハ、コノ人、公衆ニ代リ、コレヲ引受ケ、ソノ難ヲ解キ、疑ヲ釋ベシ。衆人ノ才ナク、學ナキモノハ、固ヨリ安心シテ、コノ人ニ委信スベキナリ。

以上ノ説アリトモ、議論ノ自由ヲ主張スル人ハ、コレガ爲ニ動カリレズ。何ニトナレバ、コノ説ニテモ、ソノ教道、モシ他人ヨリ問難ヲ受ルトキハ、十分ニ解釋シテ答ルガ故ニ、眞確ナリトシテ、コレヲ信ズベシトイヘリ。シカル上ハ、問難ヲ受ルヲ嫌ハザル筈ナリ。サレド、議論ノ自由トイフモノナケレバ、問難ハ出來ラザルベシ。問難ナケレバ、解釋シテ答フベキヤウナカルベシ。マタ對敵ノ黨ニテ、我ガ答

フルトコロ。十分ナラズトイフヲ顯ハシ言ベキ機會ナ  
ケレバ。何ニシテ已ガ答ノ十分ニ行届キタルヲ知得  
ヤ。

タトヒ公衆總體ニアラズトモ。セメテ理學者及ビ神學者  
ハ。最モ解釋シガタキ疑題。即チ對敵ノ黨ヨリ辯駁非斥ス  
ルトコロノモノヲ識リ熟セサルベカラズ。然レコレハ他  
人ノ自由ニ意見ヲ陳スルヲ聽ソノ身ヲ有益ナル光ノ中  
ニ置<sup>グ</sup>ヲ得ルニ非レバ。成就シ得ラルベカラザルナリ。○  
加特力<sup>カドリツク</sup>ノ教會ニテハ。嘗テコノ事ニツイテ一ノ規法ヲ立  
タリ。蓋シ人類ヲ分テ二トナシ。ソノ一ヲシテ。自ラ教法ヲ  
真確ニ知タル上ニテ。コレヲ信ゼシメ。ソノ一ヲシテ。他人

加特力教  
分人類為  
ニ

自由之理第二卷

三十三

ニ倚賴シテ。教法ヲ信受セシム。即チ僧<sup>クニタイ</sup>ト俗<sup>レイタイ</sup>トノ二ニ分チ。  
僧ヲシテ飽<sup>アツ</sup>マデニ教法ノ事ニ諳熟セシメ。俗ヲシテタ  
僧<sup>タヨリ</sup>ヲ便テ教法ヲ信ゼシムルナリ。僧タルモノハ教法ヲ司<sup>ツカサ</sup>  
ドリ。他人ニ倚賴セラル、モノユエ。許サレテ異端外教ノ  
書ヲ讀ミ。敵人ノ議論ニ通曉シ。ソノ問難ニ應答スルヲ以  
テ。已カ任トナセリ。俗人ハ。特許ヲ得ルニ非レバ。異端ノ書  
ヲ讀<sup>ム</sup>ヲ得ザリキ。○コノ規法ニツイテ觀ルトキハ。加特<sup>カド</sup>  
力<sup>リツク</sup>教ニテモ。敵人ノ意見議論ニ熟達スルハ。先生教師ニ益  
アルモノト思ヘルヲ明ナリ。但シ敵人ノ說ヲ。普ク世間ノ  
人ニ知ラシメヌヤウニト為シテ。コレヲ禁ジタリシナリ。  
サレバ。國中總體ノ人ニ。自由ニ考思ノオヲ生ゼシムルト

波羅特士  
但教許人  
自釋其是  
者而從之

先生教師  
宜著書頒  
行天下不  
可有禁制

コロニハ進マザレドツノ中ノ秀俊ナル人即チ教法ノ師  
トナルモノニハ心靈ノ才能ヲ養ヒ長ゼシメタリ夫タト  
ヒ教養ノ事アリトモ普天下ノ人ヲシテ自由ニ思想シ自  
由ニ取捨シ自由ニ避就スルヲ得セシメザレバ寛弘廣  
大ノ心アル人ヲ造リ出スヲ能ハズサレバコノ規法ニテ  
ハ未ダ十分トスルニ足ラス然レバ教師ダケハツレヲシ  
テ聰明ナル聽訟官ノ如キモノニ至ルヲ得セシメタリ  
○プロテスタニズム加特力教ヲ棄拒ムノ教派ニ從フ國々ニ  
於テハコノ方法ヲ否トナシテ用ヒズ何ニトナレバプロテ  
スタント加特力教ヲ棄拒ムノ人ノ說ニハ教法ヲ擇ンデツ  
ハ是トスルトコロニ從フハ各人自己ノ責任ナリ更ニ別  
自由之理第二卷

自由之理第二卷

三十四

人ノ事ニ關カラズコノ責任ヲ先生教師ニ委託スルハ不  
可ナリトイヘリ○コレノミナラス今日ノ天下ニアリテ  
ハ先生教師ノミヲ許シテ異端ノ書ヲ讀ミ敵人ノ說ヲ知  
ラシムルナド、イフ愚ナルヲハ決シテ行ハルベカラズ  
何ニトナレバ今時ニテハ學者ノ讀ム書モ俗人ノ讀ム書  
モ均世ニ行ハル、コユエニ俗人ヲ禁ジテ學者ノ書ヲ讀  
ザラシムルヲ能ハザレバナリ○道理ヲ教フル先生即チ民  
ヲ牖キ俗ヲ訓ルノ任アル人ハ何事ニテモ世人ノ知テ善  
カルベシト思フヲハ盡クコレヲ書ニ筆シ天下ニ頒行ス  
ベシ固ヨリ禁制ナク拘束ナカルベシ

人或ハ曰ク一世ニテ信ズルトコロノ竟見モシ真確ナル

議論之自由  
使人追  
溯其意見  
之本源

凡開基之  
人了解意  
義圓滿活  
動

時ハ再ビ議論スルニモ及ブマジ。議論ノ自由ナケレバ、ソ  
ノ害、或ハ人ヲシテソノ信ズル意見ノ根源ヲ知ザラシム  
ルニ至ルベシ。サルニモセヨ。コレハ人ノ德行ノ害トハナ  
ラヌ。一エ、意見ノ價ハ、コレガ為ニ損減セザルベシトイ  
フベシ。○我思フニ、議論ノ自由ナケレバ、人ヲシテ、ソノ執  
ルトコロノ意見ノ根原ヲ忽カセニシテ察セザラシムル  
ノミナラズ、往々、ソレヲシテ意見ノ旨義ヲモ、忘レシムル  
トナリ、ソノ言語ノ意見ヲ道出スモノ、ソヒニ意見ヲ發揮  
ト通達スルヲ能ハザルニ至リ、或ハ通達ストモ、ソノ元來  
用ル言語ノ小分ニ過ズ、ソノ意見生動セズ、ソノ信德、活潑  
ナラズ、ソノ胸中ニ存スルトコロ、特ニ少許ノ殘章斷句ア

自由之理第二卷

三十五

ルノミ、ソノ意義ノ貯フルトコロ、特ニソノ糠粃糟粕ニシ  
テ、ソノ精微要緊ナルモノハ、一モ有ラナシ。嗚呼、カクノ如  
クニシテ可ナランヤ。○コノ上ニイヘル實在ノ情事ハ、人  
世ノ史冊ノ大章段ナリ、發憤シテ默想セザルベカラズ。  
凡ソ正心修身ノ學派、凡ソ法教ノ宗門ニ於テ、ソノ成行ル  
情狀ヲ試シ觀ルニ、何モ皆ソノ開基ノ宗祖トイハル、人  
并ニコレニ親炙スル門弟子ハ、ソノ教法訓條ヲ、已ガ心ヨ  
リ締造セシモノエ、ソノ意義ヲ了解セルヲ、圓滿活動セ  
リ。始テ一宗一派ヲ立ル時ニ當リテハ、必ズソノ他ノ教法  
信録ノ上ニ超過セント欲シ、コレト角争セザルヲ得ズ。コ  
ノ角争ノ未ダ終ラザル間ハ、ソノ教徒相續テ、教法信録ノ

意義ヲ徹底通曉シ。ソノ勢力ヲ失ハザルコナリ。然レ久シ  
キ後。ソノ宗派盛ニ行ハレテ。世間總體ノ説トナリ。爭論ノ  
事。次第ニ息滅スルトキハ。コノ宗派ニテ。既ニ得タル版圖  
ハ。失ハザルベケレド。進ンデ更ニ廣宣流布スルコト能ハザ  
ルベシ。コレ何如トナレバ。コノ宗派。既ニ許サレテ。一箇ノ  
意見。一箇ノ教門ト立チ。世ニ弘マル時ニ至レバ。コレヲ奉  
ズル教徒ハ。ソノ教門ヲ承嗣ルモノニテ。コレヲ擇ビ立ル  
モノニ非ズ。而シテ一旦甲ノ教門ニ入リ上ハ。乙ノ教門ニ改  
化歸向スルコトハ。非常格外ノ事ニテ。教徒ノ心ニ。ソノ邊ニ  
思ヒ至ルコトハ。少キモノナリ。抑モ始メ一教門ヲ立ル時。或  
ハ天下ヲ敵ニ受テ。ソノ説ヲ護守シ。或ハソノ説ヲ以テ。天  
下ヲ感化セント思ヒ。ソノ心常ニ油斷ナカリシガ。コトニ  
至リテハ。サハナク。安心シタル姿ニテ。意氣低沈シ。ソノ教  
法ニ敵シテ議論スルモノアリト雖モ。コレヲ耳ニ納ズ。マ  
タ異説ヲ立テ。已カ教派ニ背クモノアリトモ。コレ等ニ關  
係セザルコトナレリ。凡ソ教派ノ衰ヘテ。生氣ナキニ至ル  
コトハ。カハル情勢ニナリシ日ヲ。ソノ始トセリ。

何ノ教法ニ限ラズ。予屢々ソノ先生教師ノ歎息シテ言フ  
聞リ。曰ク。今ノ教法ヲ信ズル人。上向ノ名バカリ。ソノ教法  
ヲ信ズレド。ソノ真理ヲ活解スルコト能ハズ。故ニ内ハ性情  
ニ沁入セズ。外ハ行實ニ發スル能ハズ。サレバ。イカニシテ。  
信者ノ心ニ。活底ノ真理ヲ保存セシムルコトヲ為シ得ンヤ

絶妙譬喩  
描出一種  
固陋人何  
代無賢乎

コレヲ為ス。甚ダ難シト云テ。歎シアヘルコナリ。○抑モ  
カクノ如キ嘆息スベキ情狀ハ。ソノ教派ノ未ダ一世ニ認  
ラレズシテ。ソノ教徒務テ對敵ノ黨ト辯論ヲ以テ相合戰  
スル時節ニハ。決シテコレナキコナリ。カク辯論ヲ爲ル人  
ハ。タトヒ勢力寡弱ナリトモ。戰フタメノ目的ヲ知リ。并ニ  
已ガ教法ト。他ノ教法トノ異同ヲ知ルコナリ。總テ一ノ教  
派始テ世ニ成立ツ時。コレニ信從スル人多クハ實ニソノ  
教道ノ根理ニ通ジ。百般ノ心志ヲ知リ。盡クソノ要緊ナル  
舉動ヲ斟酌思量シ。教法ノ信心ニ根ザシテ。品行ヲ造リ成  
シタリ。然ルニソノ教派立チ。互ニ相傳ルコトナリ。受納ル  
ノミニシテ。施シ出スコナシ。コ、ニ於テ。教徒ノ心。マタ前

自由之理第二卷

二二七

人ノ已ヲ得スシテ。活潑ノ力ヲ出シ。問難ヲ辨解スル如キ  
コナキユエニ。次第二信心失念シ。ソノ存スルトコロノモ  
ノハ。特ニ表向ノ教法禮儀ノミナリ。カクノ如クニテハ。自  
由ノ良心ニ出テ。コレヲ信スルニ非ズ。親シク經驗シ。ソノ  
實ニ信スベキヲ試ミテ。コレヲ信スルニ非ズ。タゞ古人及  
ビ他人ノ心ニ倚賴シテ。コレヲ信スルマデニテ。吾ガ真正  
ノ心靈ト。毫モ交渉ナキコナリ。サレバニヤ。今日天下ノ人。  
大半ハソノ信スルトコロノ教法ヲ。心中ニ入ス。特ニ心外  
ヲ包圍セシメ。ソレヲシテ。化シテ石質トナラシメ。コレヲ  
以テ他説ノ高ク勝レタルモノハ。吾心ヲ感動スルヲ禦グ  
ハ用トナセリ。サレバ外ニ爽快活動セル實證ノ議論アリ

死信死守  
一輩人如  
此

ト雖<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>コノ頑<sup>カクキ</sup>硬ナル膚<sup>ツカ</sup>廓アリテコレヲ守リ、フノ中ニ入  
ルヲ許サズ、カク心外ニ番兵ヲ置キテ、他物ハ入ルヲ拒メ  
ドモ、サリトテ、マ々自ラフノ心ノ爲ニ、一事ヲモ爲ス、タハ  
中央ニ空地<sup>アキタ</sup>ヲ殘シ、留ムルノミ。

元來教道ハ、深ク人心ヲ感スルノ實效アルベキニ、コレガ  
教徒トナリ信士トナルモノ、教道ヲ想像セズ、思想セズ、理  
會セズシテ、タゞ死信死守スルノミナルハ、何ニゾヤ。今上  
帝道ヲ信スル人ノ情狀ヲ寫シ出シテ、コレヲ表明スベシ。  
上帝道ノ中ニ種々ノ門派分レ、各々教會ヲ立ルヲナレド  
モ、ソノ神聖ヨリ出タル律法、即チ箴言トナシテ奉守スル  
モノハ、盡ク皆ゼ、ニユーテスタメントニ非ザルモノナシ。然ルニ

自由之理第二卷

三十八

實ニコノ律法ヲ體認力行スルモノハ、一千人ノ中ニ一人  
モアルマジト思ハル、ホドナリ。コノ外ニマタ照依スル  
定規アルヲニテ、即ソノ國ノ風俗、ソノ黨類、ソノ風俗、フノ  
教門ノ儀式ナリ。故ニ人、一ニハ、ソノ政府ヨリ定規トシテ  
立ルトコロノ倫常ノ箴言アリテ、コレヲ信ジ、一ニハ、日用  
事物ヲ分別シ練習スルノ定規アリ、即チ教法ノ信條ト、塵  
世ノ利益ト交和シタルモノニテコレヲ守レリ。蓋政府ノ  
定規ヲバ、恭敬服從シ、教法ト利益ト調和シタル定規ヲバ、  
真心ヲ以テ依從セリ。上帝道ノ徒ニテ信スルトコロノ法  
語ニ曰ク、虚心謙遜スルノ人、及ビコノ塵世ニ虐遇セラ  
ル、人ハ、必ズ天國ノ福ヲ受クベシ。曰ク、駱駝ハ針孔ノ中ヲ

穿チ入ルコト難カルベシ。塵世ノ富人ノ天國ニ入ルコトハ、コレヨリモ、ナホ難カルベシ。曰ク、吾モシ他人ヲ非議スルトキハ、上帝亦吾罪ヲ議スベシ。故ニ人ノ過失ヲ非議スルコト勿レ。曰ク、スベテ誓ヲ爲スコトナカレ。曰ク、他人ヲ愛スルコト、<sup>オシ</sup>已ガ如クナルベシ。曰ク、モシ人汝ガ裏衣ヲ奪ハント欲セバ、外衣マデモ、コレニ與フベシ。曰ク、明日ノ事ヲ思想スルコト勿レ。曰ク、盡ク汝ノ所有ノ物ヲ賣テ、コレヲ貧人ニ與フベシ。コレ等ノ事ヲ信ズルニ、活信ト死信トノ別アリ。活信ノ人ハ、コレ等ノ法語ヲ信シ、日用實行ノ上ニ行ヒ出シ、凶禍災厄ニ逢フト雖<sup>モ</sup>、コレガ爲ニ擾累セラレズ。又ソノ善<sup>ヨシ</sup>ト思ヒ行フトコロノモノハ、教法ヲ證トシ、コレヲ理論ニ

自由之理第二卷

三十九

發スルコトモ成シ得ラルベキナリ。死信ノ人ハ、ソノ法語ヲ身ニ踐ミ行ハント思ハズ。故ニコレヲ事物ノ間ニ施スコトヲ知ラズ。心中ニ勢力ナク、タゞ教法ノ儀式ニ從ヘルノミ。若シ行爲ニ關係スルコト出來ルコトアレバ、或ハ甲ノ先生ニ向ヒ、或ハ乙ノ先生ニ向ヒ、ソノ指導ヲ仰ギ求ムルコトナリ。我往昔ノ西教ノ教徒ヲ觀ルニ、今世死信ノ人ノ如キ情狀トハ、<sup>ハルカ</sup>變ニ相別異セリ。モシコレト同ジカリシナラバ、西教イカニシテ、<sup>ヒラ</sup>希伯來ノ如キ輕賤セラレタル國ヨリ起リテ、羅馬ノ版圖ニ蔓衍スルニ至ランヤ。西教ニ敵スル人相語リテ曰ク、彼ノ教徒ヲ視ヨ、互ニ相愛スルコト一ニ何ゾ深キヤト、コレニテ知ルベシ。昔時ノ教徒、教書ノ意味ヲ活解ス

教派之被  
怪于世  
者其精神  
活潑勝於  
被許于一  
世者

仇敵已滅  
睡眠方始

ル。後世ノ及ブベキニ非ズサルカラニ。西教ノ傳播スル  
ヲ甚ダ遅ク。一千八百餘ノ星霜ヲ經レテ。歐羅巴人及ビ他  
邦ニ住スル歐羅巴人ノ苗裔ニ限リ。ソノ他ニ及バザルナ  
リ。堅ク教道ニ黏附スル黨類アリト雖。凡カ爾平諾克斯ノ  
如キモノニ激動セラル、ノミニテ。ソノ發奮ノ心。自己ヨ  
リ生ズルニ非ズ。蓋シ通常ノ人ハ。徒ニ教祖ノ言ヲ聞ルノ  
ミニテ。ソノ他何事ヲモ成就シ得ザルナリ。歴ク諸々ノ教  
派ヲ觀ルニ。ソノ世人ニ怪マル、教派ハ一世ニ許サル、  
モノニ比スレバ。活潑ナル精神ヲ存セリ。コレガ先生教師  
トナレルモノハ。更ニ他ニ比スレバ。許多ノ辛苦ヲ厭ハズ。  
教道ハ意味ヲシテ死セザラシム。是何ノ故ゾトイフニ。獨

自由之理第二卷

四十

異ナル教派ハ。他ノ教派ニ比スレバ。最モ多ク疑難ヲ受ケ。  
最モ屢々公然トシテ我ニ抵抗スル人ヲ防ガザルヲ得ザ  
レバナリ。然レデ。ソノ教世ニ行ハレ。敵既ニ見エザル時ニ  
至レバ。先生モ學者モ。早く已ニ睡眠ヲゾ始メタリケル。何  
ノ宗派ニテモ。ソノ顛末大抵カクノ如シ。

上ニイヘル如キノ情形。ヒトリ教法ノミニ限ラズ。古ヨリ  
言傳フル人生智識ノ理學。及ビ正心脩身ノ教ニ於テ。マタ  
皆然リ。凡ソ語言文字書冊ノ中ニ。人生日用守ルベク行フ  
ベキ箴規ハ。充滿セリ。ソノ箴規ヲバ。格言法語トナシテ。人  
々耳ニ慣レロニ誦スルヲナレデ。困難痛楚ノ事ニ當リ。親  
試實驗スルニ非レバ。ソノ箴規ハ意味ハ真實ニ身ニ覺ヘ

ヌコノリ。人往々意外ノ凶禍ニ罹<sup>カ</sup>リ。或ハ失望ノ事ニ逢フ  
トキハ。古語諺語等ヲ憶ヒ出ス。ソノ語ハ。平常口癖ノヤウ  
ニ言慣タルモ。コノ時ニ至リ。始メテソノ意義ノ  
眞確ナルヲ覺ユ。モシ最前ヨリコノ時ノ如ク覺ヘタラン  
ニハ。凶禍ニ及バザルベシト思フホドナリ。サレバ。身自ラ  
經驗シタル後ナラデハ。真理ヲ含メル語ノ意味ヲ實ニ覺  
ヘザルガ如キ事。許多アルベシ。コレ等ハ對敵ノ黨ヨリ非  
難ヲ受テ。相與ニ辯論スルヲ待<sup>タ</sup>シテ。ソノ真理ナルヲ  
知ルナリ。然ドモ。ヒシ他人ヨリ長短ヲ議論スルヲ。常ニ聞  
タランニハ。ソノ理會スル。更ニマタ深カルベシ。人心ノ  
病害。ソノ治療スベカラザルモノハ。何事ニテモ復々疑ヲ

自由之理第二卷

四十一

容<sup>ハ</sup>ザル<sup>ハ</sup>トキハ止<sup>ム</sup>棄<sup>ス</sup>テ考<sup>ヘ</sup>思<sup>フ</sup>セザルコナリ。ソノ謬誤ノ見ニ  
陷<sup>イ</sup>リテ。自ラ知ザルハ。コレニ由リ。當今著作家ノ言ニ定見  
ノ深<sup>ク</sup>睡<sup>ム</sup>一定ノ見識ヲ立<sup>テ</sup>自ラ是トシテ。更ニ考  
アリ。道得テ好シ。

定見之深  
瞻吾黨  
者所當深  
誠

或人コレヲ聞テ疑問ヲ發シテ曰ク。子ノ言トコロノ如ク  
ナレバ。心意ノ同一ナラザルコハ。眞正ノ智識ヲ得ルタメ  
ニ。必要ニシテ缺<sup>ク</sup>ベカラザルモノトスルカ。真理ヲ證知セ  
シタメニ。人或ハ謬誤ニ膠執<sup>カタマリツク</sup>スルモノハ。必需ニシテ無  
ルベカラザルカ。何ノ教派ヲ論ゼム。モシ世ニ用<sup>ハ</sup>ル。時  
ニ至レバ。忽チ眞正ノ信仰スル人。即チ活信ノ人モハヤ出  
ヌトナルニヤ。而メソノ中ニ疑フベキモノ復存スルナ

キトキニハ、議論ノ題目、決シテ明白通曉ナル一能ハザル  
ニヤ、世上ノ人、同心一致シテ、何ナリトモ、ソノ真理ヲ認信  
スルトキニ至リ、ソノ真理忽チ亡ブルニヤ、今マデ人ノ思  
フトコロニテハ、凡ソ緊要ナル真理ハ、同心一致シテ、コレ  
ヲ認ルモノ、愈々益々多キヲ善トシ、コレヲ以テ極高ノ  
志願トシテ、コレヲ以テ、智識聰慧ナル徵候トセリ、然ルニ、  
子ノ言ノ如クンバ、ソノ志願未ダ達セザル間ハ、智識聰慧  
ニ進ミ、ソノ志願既ニ達スルトキハ、聰慧頻ニ退クトイフ  
ニヤ、戰勝ノ事實、ソノ十分成熟スルニ及ビ、忽チ亡失スル  
トニヤ、

コレニ對ヘテ曰ク、予カクノ如キヲ是ナリト説キ定メ

自由之理第二卷

四十二

真理之數  
愈増、福祥  
之氣、斯愈  
増

ズ、蓋シ人民ノ開化が進ミ、位價が善クナルトキハ、モハヤ  
疑ヲ容ズ、爭論ヲ為サル教派ガ、日ニ益數添ルヲナリ、而シテ  
人生福祥ノ氣ノ多少ハ、真確ト認ル理ノ多少ニ視ラフ、真  
理ノ數、増トキハ、福祥ノ氣、増ヲ知ルヘシ、ソノ真理ハ既  
ニ爭論ナキモノナリ、抑モ關係アル爭論、次第ニ息テ、意見  
ノ合一スルハ、自然必有ノ事ナリ、真確ノ意見合一スルハ、  
世ニ益アリ、謬誤ノ意見合一スルハ、世ヲ害ス、然ト雖モ、コ  
ノ二著眼スベキコトアリ、カク意見ノ殊異ナルモノ、境界、  
次第ニ狭クナルヲ、自然ノ勢ニシテ免カルベカラズ、サレ  
ド、コレヨリシテ利益アル事實ヲ結ブベシトハ、定メテ言  
ガタシ、何ニトナレバ、敵人ニ向ヒ、吾説ヲ講明シ、或ハ隄防

スルヨリシテ、吾<sup>ガ</sup>聰識ヲ増シ真理ヲ活解スルヲ得ルノ資  
益ハ、甚ダ大ナルヲナルニ。コノ大資益ヲ失ヒタレバ、タト  
ヒ意見合<sup>ハ</sup>一シテ、一般ニソノ真理ヲ認<sup>ト</sup>ルノ利益ヲ得タリ  
トモ、コノ損失ヲ以テ、ソノ利益ヲ扣除セバ、ソノ扣除セラ  
ル、モノ、必ず少數ナラズ、予切ニ思ヘラク、異論<sup>異</sup>抵牾<sup>牾</sup>ヨリ  
生ズルノ利益ハ、今已ニ失ヒタレバ、世ニ先生教師タルモ  
ノ、ソレノ代リニ、務<sup>メ</sup>テ六ヶ敷難問ヲ設ケ、學者ノ面前ニ掲  
ケ、恰<sup>カ</sup>モ異見ノ人ノ、學者ニ迫<sup>セ</sup>リ、モシソノ言<sup>イ</sup>開キ出來ヌト  
キニハ、改宗シテ吾<sup>ガ</sup>說ニ從フベシト、督責スルガ如クナラ  
シムヘシ。

カクノ如キ主意ヲ以テ好<sup>キ</sup>方術ヲ求<sup>メ</sup>ントハセズシテ、昔

自由之理第二卷

四十三

シコレニ似タルモノアリシヲモ、今ハ并セテ失ヒタリ。蓋  
シ古<sup>ノ</sup>普<sup>ラ</sup>拉<sup>ト</sup>士問答ノ法アリシガ、瑣<sup>ソ</sup>格刺<sup>ク</sup>底<sup>テ</sup>ノ理論ヲ祖述  
表明セシモノニテ、即チ難問ヲ設ケシ方術ナリ。

コノ問答ノ法ハ、理學及ビ人事ノ大題目ニツイテ、傳ヘ受  
タル教道ニ向ヒ、故<sup>コ</sup>ラニ駁議ヲ設ケ、非難ヲ入レ學者ヲシ  
テ、コレガ答ヲ為<sup>ナ</sup>シム、抑モ總體ニ行ハル、意見トナリタ  
ルハ、専門ハ士ト雖<sup>モ</sup>、ソノ意義ヲ了悟ヒザルニ至ルハ  
弊アリサルカラニ、カク問答ヲ為シ、反復論究スルトキハ、  
學者已<sup>レ</sup>ガ未ダ知<sup>ラ</sup>ザルトコロアリシヲ知リ、ソノ教道ノ意  
義并<sup>ニ</sup>ソノ證據ヲ明白ニ合點スルヲ得、ソノ信スル心堅  
固ナルヲ得ルナリ。○中世ニ至リ、學校ニテ辯論ノ事ヲ設

ケシモ亦カ、ル主意ヨリ出タルナリ。即チ學生ヲシテ、ソノ自己ノ說ヲ會得シ、并セテ已ノ說ニ抗敵スル說ヲ知シ、メカクシテ、ソノ教道ノ淵源ニ達シ、他ノ教道ヲ折服スルヲ得セシメタリ。コノ中世學校ノ辯論法ハ、譬スベカラザル弊病アリ。何ニトナレバ、ソノ發端トシテ掲グルトコロノ論題ハ、典常ト定メタル古書ヨリ引キ出シ、タトヒ疑問ヲ入ル、トモ、後ツヒニコ、ニ折衷シ、ソノ裁定ニ歸スルヲナレバ、即チコレ決ヲ道理ニ取ラシテ、決ヲ古書ニ取ルナリ。ユエニ人心ノ教養トナレル所以ニ至リテハ、瑣格刺底ノ理論ニハ、遙ニ劣レリ。然ドモ近世及ビ當今ニ至ルマデ、人ノ心智ハ、コノ二者即チ瑣氏ノ理論、并ニ中世ノ辯論法ノ力ニ藉ユルテ少ナ

自由之理第二卷

カラズ。而メ今世教養ノ方法ニ於テハ。カクノ如キモノナク。ソノ代ニ充ベキ所以ノモノヲ少タリ。

人ノソノ教訓ヲ書籍及ビ教師ヨリ受タルノミナルモノハ縦ヒソノ人自ラ滿盈スルノ惡弊ヲ免ル、カ凡オレ已ガ一方ノ説ヲ知ルルニシテ他ノ一方ノ説ヲ聞知キルニ由ナシ是故ニ善ク思察スル人ト雖凡カ彼我兩端ノ説ヲ知ララシテ學問優等ノ地位ニ達シガタシカクシテソノ對敵ノ黨ニ應答シオレ已ガ説ヲ扞衛ストイヘ凡カ人々ノ知トコロニシテ軟弱ナル議論ナリ○道理ヲ論スルニオレ已ガ是ナリトスル説ヲ立ルヲ能ハズシテ他人理論ノ短劣ヲ議シ行事ノ謬誤ヲ斥ルモノアリカクノ如クタバ他人ヲ非スル理論ヲ當

自求短處。  
自作駁說。  
是為至要。

時ノ俗ニテ鄙シミ輕シズ。然レ確實ナル智識ヲ得ンガ爲  
ノ方法トシテ用ニハカクノ如キ人ト雖モ甚ダ貴トビ  
重ンズベシ。算術及ビ體質ノ學ヲ除クノ外何ノ學術何ノ  
教道ヲ論ゼス。善ク難問法ヲ設ケテ教育セラレザルウチ  
ハ思想者ノ大人ハ多ク世ニ出ズ。而モ人民大率下流劣品  
ナルヲ免カレザルベシ。何事ニ限ラズ凡ソ人務テ已ニ敵  
スル者ト反復辯論シ心オヲ長ズルニ非レバ所謂智識ト  
稱セラル、ニ足ルモノハ得ベカラズサルカラニモシ已  
ニ敵スル者アラザルトキハ自ラ短處ヲ求メ駁說ヲ作ラ  
ザルヲ得ズコレ甚ダ難ケレバ至要ニシテ少ベカラザル  
ナリ。然レバ自然ニ已ニ敵スル者出來ルヲアラシニ棄

自由之理第二卷

四十五

テ取ザルハソノ愚ナルヲイカバカリゾヤ。予故ニ以爲ク  
世ニ人アリテ舊說ニ反シ一體ニ是ト許セル意見ヲ駁セ  
バソノ人ニ向ヒ謝辭ヲ陳ベ心ヲ開キテソノ說ヲ聽ベシ。  
且カクノ如キ人ヲ得ルヲ悦喜スベシ。何ニトナレバ縦  
ヒ予及ビ一世ノ說眞確ナルモノヲ有ニモセヨ。若シコノ  
人アラヌ時ハ我等自ラ駁辭ヲ作り難問ヲ設クベキナレ  
バソノ勞苦コレニ増シテ大ナルベシ。  
コノ上既ニ他人意見ノ殊異ナルモノヲシテ已ガ利益ト  
ナラシムル緣故ノ重ナルモノヲ論ゼシガ今コノ緣故ハ人  
ノ緣故ノ言ハザルベカラザルモノ存セリ。コノ緣故ハ人  
類一齊ニ聰明上進スル一層級ニ至ラザルウチハ必ズ續

キテ已ザルベシ。而ノコノ層級ニ至ルハ。今日ヨリ觀レ  
バ。遙遠ニシテ測算スベカラズ。

抑モ今マデ特ニ二箇ノ事ヲ論ゼリ。即チ一世ニ是トセラ  
ル、說ソノ訛謬ナランモ知ベカラズ。サレバ。マタ他說ノ  
出ルモノ。真確ナランモ知ベカラズ。是レ一舉世ニ是トセラ  
ル、說果シテ真確ナリトモ。背反スル謬說ト相闘フトキハ。  
ソノ真理明白ニ領悟シ。深クソノ心ニ入ベシ。故ニ敵人ノ  
說緊要ニシテ少ベカラズ。是レ二以上論ズルトコロコレニ  
止ルコ、ニ一箇ノ事アリ。上ノ二箇ノモノニ比スレバ。多  
クアルヲナリ。即チ二箇ノ教道アリテ。互ニ相爭論スルニ。  
何ヲ真トモ偽トモ定メガタク。ソノ相反對スルニ說ハ中

自由之理第二卷

四十六

間ニ真理ヲ有ツモノナリ。蓋シ一般ニ奉スル教道。タゞ真  
理ノ一分ヲ占ルニ過ズ。而ノソノ餘ノ真理ハ。コノ教道ニ  
從ハザル異論ノ中ニ含有セリ。

世ニイフトコロノ公論ハ。中ニ真理ノ幾分ヲ含メルノミ  
ニシテ。全ク皆真理ナルニ非ズ。時トシテハ。多分ノ真理ヲ  
占メ。時トシテハ。少分ヲ占ム。或ハソノ論說過甚ニシテ。真  
理ニ拗違シ。コレト離ル、ヲアリ。世ニイフトコロノ異端  
邪說ハ。常ニ世ニ壓抑セラレ。忽畧ニセラレシ真理ヲ含メ  
リ。所謂異端邪說トイハル、モノ。種々アリト雖。大要ニ  
類ニ分ツ。ソノ一ハ。公論中ニ含メル真理ト和睦シ。已ガ真  
理ヲ伸サント欲スルモノアリ。其二ハ。公論ヲ全ク已ニ反

スル敵ト見テコレト争ヒ自ラ孤立シテ已ガ説ハ全ク真理ナリトイフモノナリ。今日ニ至ルマデハ其二ノ如ク議論ヲ立ル人最モ多シ。何トナレバ人ノ心ハ常ニ一偏ニ傾ク。コニ定リタルモノニテ諸方ニ向フハ常例ノ外ナリ。サルカラニ古ヨリ意見議論ノ大ニ變スル時ヲ見ルニ一説ハ外リ一説ハ沈ム。一方ノ真理ハ現レ一方ノ真理ハ隠ル。教道上進ノ事ニ於テモ新ナルモノ故モノニ添ヘ加ハリテ宜シカルベキト思フコモ多クハ新ナルモノ故ニ代ルコナリ。即チ舊キ一偏不全ノ真理廢シテ新シキ一偏不全ノ真理起ルコナリ。本來ナラバ新舊トモニソノ真理相和スベキニカク外沈廢起スルハ極善ノ事ニ非ズ。然レコ

自由之理第二卷

四十七

ノ變革ノ度ゴトニコレニ由テ進益スルコトハナレリ。蓋シカク一時新説盛シニナリテ舊説衰フルコトハソノ新説ニ合メル真理ソノ分量寡シト雖モ甚ダソノ當時必需ノ用ニ應ズルコトユヘニ舊説ヲ排シテコレニ代リシナリ。凡ソ意見議論一時流行スルトキハカクノ如ク一偏ニ倚ラル。人心自然ノ情勢ト見ユ。故ニタトヒ當時一世ニ是トセラル。意見議論實ニ真確ノ理ニ淵源シ移シ易ベカラザルモセヨ。モシ意見議論ノ新ニ出ルモノアリテ舊説ニナキトコロノ真理ノ一分ヲ有コナレバイカバカリカコレヲ寶重スベキナリ。タトヒソノ真理ナルモノ許多ノ迷謬錯誤ノ中ニ混淆スルトモ固ヨリ揀ビ取ルニ妨ナシ。抑

モ人世ノ事ニ於テ。他人ノ説ニ真理アルヲハ。モシ他人ノ  
説ナケレバ。ソノ真理ヲ我等見失ヒシナルベシト。コレヲ  
重ンズルニ。我等ノ説ニ真理アルヲ。モシ他人ニ忽略シ  
テ省セラレザレバ。淡泊ナル人モ。惱怒ヲ生ズベキナリ。民  
心ヲ得タル真理。苟モ一偏ニ倚ルヲ免レザルウチハ。民  
心ヲ得ザル真理モ。マタ一偏ニ倚リ。ソノ説ヲ主張スベシ。  
否セザレバ。勢力ナシ。自ラ全體ノ智識ト稱スルモノ。ソノ  
實ハ零碎ノ智識ナルモノニシテ。世人ニ嫌ハレナガラ。自  
ラ世人ヲシテコレニ着意セシムルヲトナルナリ。

サレバ。第十八回百年ノ間。學者ト。不學者トヲ論ゼス。所謂  
開化ノ事トイヘルモノニ驚キ。今時ノ文藝學術。及ビ理學

自由之理第二卷

四十八

ノ新奇ナルヲ稱賛ス。而メ今人ノ古人ト同ジカラザルモ  
ノヲ綜算シ。甚ダ大ニコレヲ重ンジ。遂ニ凡ソ古人ト異ナ  
ルモノハ。盡ク吾意ニ中レリト為テ疑ハザルニ至レリ。蘆  
騷ガ驚奇駭異ノ説ヲ唱フルニ及ンデ。砲丸人衆ノ中ニ爆  
裂スルガ如ク。流俗一偏ノ意見。凝テ一塊トナレルモノヲ  
破リ散ジ。再ビソノ意見ノ原質ヲシテ。善形ノモノニ結合  
シ。更ニ新味ヲ以テソノ中ニ含マシメタリ。コノ一大震動  
ノ如キ。舉世ニ健康ナル精神ヲ與ヘシナリ。抑モコノ時一  
世ニ流行スル説。蘆騷ノ説ノ真理ニ近ヅケルニ及バザル  
ユエカトイフニ。サニアラズ。時俗ノ説。蘆騷ヨリハ。真理ニ  
近ヅキタルノミナラズ。ソノ真理ヲ含有スルヲ蘆騷ヨリ

左傳晏平  
仲論梁丘  
據同之可  
可辨和同  
之異可併  
參一

多クツノ謬誤。蘆騷ヨリ少シ。然ト雖凡蘆騷ノ說ノ中ニ含  
メル真理ハ。時俗ノ說ノ缺タルモノナルガ故ニ。ツノ議論  
ハ。川水流レ去ルト雖凡。ツノ真理ノ分ハ。世ニ存シテ泯ビ  
ズ。故ニ蘆騷書ヲ著ハシテヨリ以來。人生ノ樸實ヲ第一ニ  
重ンズベキ。及ビ人造ノ偽善ノ風俗ヲ壞リ。勢力ヲ弱ク  
スル。コノ二者ノ如キ。學者ノ心ニ。全ク遺忘セザル。ト  
ハナレリ。コレ等ノ功驗。未ダ世ニ發見セザレバ。必ズツヒ  
ニ發見スルノ時アルベシ。當今ノ世。言語ヲ以テコレヲ證  
實スル。殆ンド其力既ニ盡タレバ。再ビ行事ヲ以テコレ  
ヲ證實セザルベカラザルナリ。

國政ヲ商議スルニ於テモ。亦兩箇對敵ノ黨アル。ナリ。ツ

自由之理第二卷

四十九

ノ一ハ規矩ニ循ヒ。穩固ヲ務ルモノ。ツハ一ハ改革ヲ欲シ  
日新ヲ事トスルモノ。コノ二者トモニ國政ノ爲ニ必要ナ  
ル本質ナリ。蓋シ各相議論スルニ由テ。識見益々大ニナリ。  
コレハ存守スベキモノ。コレハ廢除スベキモノトイフ。コ  
ヲ明ニ分別スルヲ得ルニ至レリ。コノ二者。各々他ノ一方  
ノ短處ヨリシテ。吾方ノ利益ヲ考ヘ出ス。ナリ。然ドモツ  
ノ大分ハ。各我ニ抵抗スル說アルニ由テ。雙方ノ議論。各々  
過甚ニ至ラズ。道理ノ界限ヲ踰ス。健旺ノ精神ヲ保ツ。コ  
ヲ得ルナリ。凡テ世上ニ行ハル。事。皆兩箇ノ相對スルモノ  
アリテ。ツノ鈞合ヲ成ス。一方ガ輕ク。一方ガ重クテハ。宜シ  
カラズ。譬ヘバ。百姓政治ノ說ヲ好ムモノアリ。諸侯政治ノ

是之謂中  
和是之謂  
公平

説ヲ好ムモノアリ。人ツノ世業ニ隨テ、貴賤ノ差アル説ヲ  
好ムモノアリ。人ニ貴賤ナクミナ同等ナリトイフ説ヲ好  
ムモノアリ。彼ト同心協力スベシトイフモノアリ。彼ト對  
敵シテ勝ヲ爭フベシトイフモノアリ。奢華ヲ好ムモノア  
リ。儉約ヲ好ムモノアリ。總體一同ノ上ニ着眼スル説ヲ好  
ムモノアリ。各自一己ノ上ニ着眼スルヲ好ムモノアリ。自  
由ヲ好ムモノアリ。規則ヲ好ムモノアリ。ツノ他、カクハ如  
ク相對敵シテ立ツモノハ、雙方ミナ同様ノ才能同様ノ勢  
力、同様ノ自由ヲ以テ已ガ説ヲ行ハンコヲ務ムベシ。モシ  
然ルコト能ハザレバ、雙方ノ主意程能當然ノ中ニ合ハズシ  
テ、片落ニナリ。恰モ天平ノ鈞合ガ平ナラスシテ、一方ハ上  
リ、一方ハ下ルガ如クナルベシ。

自由之理第二卷

五十

人生ノ實事ニ於テ、コレハ真理ナリト知ラル、コハ、或ハ  
寛大ノ量アリテ偏頗ノ心ナキ人已ニ反對スル説ヲ斟酌  
參同セシニ由リ、或ハ各々旌旗ヲ張り辯舌ヲ以テ交戦セ  
シニ由リ、且ツコノ上ニ救擧スル兩箇相對スル説ノ如キ。  
何ニテモ此一方ノ説、彼ノ一方ノ説ヨリモ、世人ニ許容セ  
ラレ、獎勵セラレテ、勢力ヲ得タランニハ、異時黨與ノ衰減  
スルハ、必ず此一方ノ説ナリ。蓋シ政事即チ人事上ニテ、意  
見ヲ述べ、議論ヲ發スルハ、一方ノ利益ノ屈抑セラル、モ  
ノヲ指陳スルナリ。英國ニテ、カクノ如キ議論ノ異ナルモ  
ノハ、コレヲ寬許シテ、ツノ説ヲ陳セシム、コレ他ナシ。意見

名論不磨

一人特異  
之論必有  
足聽聞者

ハ種々ニ異ナルモハアルニ賴リ真理ハ四旁ヲ知リ公平  
ハ處置ヲ行フハ機會生ジ來レハナリコレノケレハコ  
ノ機會至ルニ由ナシリルカラニモシ人アリテ何事ニテ  
モ天下一般ノ說ニ同ヒスシテ特異ノ論ヲ發スル時ハソ  
ノ人ノ言トコロ必ズ聽聞スルニ足ルモノアリト思フベ  
シタトヒ天下一般ノ說是ナリトモコノ人ノ言ヲ忽略ニ  
スベカラズ而ノモシ一世ニ異說ヲ言モノナキトキハソ  
ノ異說ヨリ出ベキ真理ヲ世人知ベキニ由ナクソノ損失  
イカバカリゾヤ或ハコレヲ駁シテカク言ベシ曰ク然ト  
雖モ古來相傳ル道理就中高尙ニシテ活潑ナル事柄ニ於  
テハ真理ソノ半ヨリ多分ニ居ル西教ノ如キハソノ德行  
自由之理第二卷

五十一

ノ教全ク皆真理ナリ而人誰ニテモ德行ヲ教ヘテ西教ニ  
異ナルモノハ全ク皆謬誤ナリ

コレニ對ヘテ曰ク西教ニ教ルトコロモト此世ノ事ニ非  
ズ且シ新舊約書ニ教ユルトコロノ規法禮儀ハ特ニソノ  
一方ノ習ニ適シ猶太ノ俗ニ隨ヒシモノナレバ固ヨリコ  
レヨリ賢キ德行禮儀アラバコレヲ改メテ妨ナシ故ニ保  
羅ハ猶太人ノ解經ノ法ヲ駁シ大ニ希臘羅馬ノ規法禮儀  
ヲ取り用タリ且今日ニ稱スル西教ノ規法禮儀ハ加特力  
教會ニテ次第ニ建設ケ新教ノ人コレヲ修改セルモノナ  
リ固ヨリ救主及ビ使徒ノ作レルモノニ非ズ抑モ西教ノ  
規法禮儀固ヨリ十分完全ナルモノニ非ズシテ一方ニ偏

譯者曰。前  
代。余所不  
服也。

慕罕默德  
法言人主  
不可不知

倚スルモノ少カラズ。而ノコレニ拘ハラザル意見性情ノ。  
歐羅巴人ノ風俗ヲ造リ出スモノナカリセバ。人生ノ事。今  
日ノ情形ヨリハ更ニ惡カリシナルベシ。故ニコレ等ノ規  
法禮儀ヲ定メタル古人ニ。大恩ヲ受ルトイフ。說ハ。予敢テ  
以テ然リトセズ。蓋シソノ所謂規法禮儀ハ。コレヲ為セト  
命ズル邊少ナク。コレハ爲ザレト禁ズル邊多シ。施シ行フ  
邊少ナク。堪忍スル邊多シ。高尚ナル邊少ク。害ヲナサス邊  
多シ。善ヲ行フ邊少ナク。惡ヲ戒ムル邊多シ。情慾ノ感ヲ恐  
懼シコレヲ防ガント欲スルヨリシテ。草衣木食ノ流ニ入  
リアリ。人ノ德善ノ志願ハ。天上ノ望ミ冥獄ノ懼ヨリ生ズ  
トスルガ如キハ。遙ニ前古ノ極善ナル人ノ下ニ出ヅ。即チ

自由之理第二卷

五十二

コレ人ヲシテソノ職分ヲ盡ス心ヨリシテ。他人ヲ利スル  
コヲ行ハシムルニ非ズシテ。ソノ自ラ私ジスルノ心ヨリ  
シテ。他人ヲ利スルコヲ行ハシムルナリ。蓋シソノ教道ハ。  
忍受順從ノ教道ナリ。凡立タル官府ニ服従スベキヲ命ゼ  
リ。若シ官府ニテ教法ニ背ケルモノヲ命ジテ爲シムル時  
ハ。コレニ從ハズ。然レコレニ抵抗スルヲ許サズ。タトヒ已  
等ニ許多ノ非理ヲ加フトモコレニ對シテ叛逆スベカラ  
ズトセリ。異教ノ國ト雖レ。善國ノ教ハ。國ノ爲ニ職分ヲ盡  
スベキコヲ重ンズルコト甚シ。西教ニ於テハ。コノ職分ノ一  
項ヲ脫畧シタリ。法言ニ曰ク。凡ソ一國ノ君主國人ヲ擽  
テ何ノ職ヲ授ケンニモ。若ソノ擽バル人ヨリ更ニ勝レテ

ソノ職ニ當ルモノ、國中ニアランニハコノ國主ハ罪ヲ  
上帝ニ得マタ罪ヲ闔國ニ得ベシトコノ言ハコーラン慕德  
ノ作レ經文ノ中ニアリテニユーテスタメントニハアラザルナリ。  
今世ノ脩身教ニテ公衆ノ爲ニ職分ノ勤ムベキヲ言ハ  
希臘羅馬ヨリ發源シ來レルモノニシテ西教ニ非ズマタ  
人々一已ニ就テ所謂寬心大量高尚ノ心本身ノ高貴德行  
爵キモノヲ指ス天ト云ガ如シ氣節ヲ尚ビ廉耻ヲ知ル等ノ如キモノハ  
人道ノ教ヨリ生ジ出ルモノニシテ法教ニアラザルナリ  
人或曰西教ノ中ニ人倫ノ教道盡ク備レリソノ中ニ包含  
セザルトコロノモノハ西教ト合一スルヲハ許サレザル  
ベシ余オモヘラ以爲ク西教モト塵世ノ教ニ非ズソノ中ニ人倫ノ

自由之理第二卷

五十三

規法モアルヲナレド全備スルモノニアラズソノ人倫ノ  
規法ヲ言ルモノ持ニ真理ノ一分ヲ含有スルノミ然ニ西  
教ニ含有セザルトコロハ人倫ノ教道トシテハ用ヘカラ  
ズトイフハ大ナル誤ナリカクノ如キ狹隘ナル理論ハ善  
人君子ノカヲ極メテ教訓ヲ設ケ益ニ一世ヲ善スル事ヲ  
妨サマシグル細小ナラス予尤モ懼ル、ソハ世人專パラ法教ノ  
模範ニ泥ミ世俗ノ教訓ヲ廢セントセバ必ズ卑賤ナル模  
範ヲ生ジ出スベシ自ラハ至大ノ上帝ノ旨ニ合フベシト  
志ザセドモコレニテハ畢竟上帝至大ノ仁善ヲ料リ知リ  
ソノ情性ト合一ナランヲ求ムトモ得ベカラザルナリ  
元來西教ハ固ヨリ靈魂ヲ救フノ道ニシテ此世ノ事ニ非

種々意見  
不相同者  
決不可無  
真理由是  
而出進益  
由是而得

ズ故ニ人倫ノ善教ハ西教ヨリ出ザルモノト雖モ並ビ行  
ハレテ相悖ラザルベキナリ法言ニ曰ク世上ノ人心未  
ダ十分完全ナル情形ニ至ラザルウチハ真理ヲ求メ進益  
アラントイフ欲スルニ相同カラザル種々ノ意見アルベキ  
ヲ要ストイヘルヲ西教ト雖モコノ規法ニ漏ルゝナカ  
ルベシ既ニ西教ニ含有セザル人倫ノ真理ヲ知ザルベカ  
ラズトイヘバ西教ニ含有スルモノマサニ知ルベキハ  
勿論ナリ蓋シコノ上ニイヘル或人ノ言ノ如キ偏見謬說  
ニ陷ルゝハ世道人心ヲ善スルヲ妨害スル甚シキ弊害ナ  
リ然レモ吾人ノ入ヤスク免カレガタキモノナレバ常ニ着  
意シテ戒メザルベカラズ○真理ノ一分ヲ得タルニ過ズ

自由之理第二卷

五十四

シテ真理ノ全體ヲ得タル如ク獨リ自ラ誇張スル說ハコ  
レヲ拒ギソノ不是ヲ説明サルベカラズモシ彼ヨリ背  
逆ノ言ヲ以テ我ニ回應セバ彼ノ一方ニ偏執シタルヲ  
惜ミ哀シムベシ然レモマタコレヲ許シ置クベシ西教ノ士  
モシ西教ヲ信ゼザル人ノ已等ヲ待スルニ公平ナルベキ  
ヲ欲セバ已等ガ西教ヲ信ゼザル人ヲ待スルニ公平ナル  
ベキヲ要スイカニトナレバ人倫ノ善教ヲ著ハセル人ニ  
シテ西教ヲ知ズ西教ヲ排斥スル人多シ蓋シ西教ハ靈魂  
ヲ救フノ事ニシテ肉體ノ事ニ非ズ永生ノ事ニシテ今生  
ノ事ニ非ズソノ中ヨリ今生ノ善教モ出ルゝナレド盡ク  
ソノ中ニ備具ストスルハ大ナル惑ナリ

異說之紛  
起可以微  
世人有健  
旺精神  
于安靜  
默焉々

問フ意見ヲ立議論ヲ發スルコト既ニ十分ノ自由ヲ得タラ  
ンニハ理學家及ビ法教ノ別ニ異說ヲ始ムルノ弊ハ止ム  
ベシヤ答テ曰ク否否才量褊小ナル人ノ言コニテモ熱心  
ニ考思シ異說ヲ立ルコトハソノ中ニ必ず真理ヲ含メリ故  
ニ自由ニ議論スルコトヲ得バ異說ハソノ真理ヲ顯サント  
欲シマスニ已ニ反對抵抗スル論ト相激シテ盛ニ興ルベ  
シ予カ所見ニテハカク種々ノ意見相觸激スルハ世上ニ  
健康ナル精神ヲ振ヒ起スコトニテ安靜緘黙スルニ愈フ萬  
ニナリ蓋シ怕ルベキ大害ハ雙方ノ真理ノ互ヒニ相論駁  
スルニ非ズシア一方ノ真理ノ抑壓セラレ聲息ヲ出サバ  
ルニアリサルカラニ人民雙方ノ說ヲ聞トキハ常ニ望ム

自由之理第二卷

五十五

ベキノ善事アリ人民一方ノ說ニノミ注意スルトキハ始  
ニシテ謬誤トナリ終リニシテ偏執固滯トナリソノ中ニ含  
ル真理モ餘ニ張皇シ過ルニ由テ化シテ荒唐トナリ真理  
ガ真理ノ用ヲ做ヌコナリ夫人タトヒ公平ニ裁判スル才  
能アリト雖モ兩說アル疑案ヲ審斷スル時モシ一說ノ方  
ニハ公事師アリテ一說ノ方ニハ公事師ナカラニハ公  
事師ナキ一方ノ真理ヲ看出スコト難カルベシ蓋シ種々ノ  
意見各々真理ノ零片ヲ有テルコトユエニ兩說相對スルト  
キハ各々已ニ荷擔スル公事師ヲ求メ裁判スル人ヲシテ  
雙方ノ說ヲ公平ニ聽シムベシ

我既ニ四種ノ緣故ヲ推シテ意見ノ自由及ビ意見ヲ言ヒ

顯ハスノ自由ハ、人生ノ福祉ヲ増ガ爲ニ必要ニシテ欠ベカラザルヲ論ゼリ。今コレヲ簡短ニ再ビ説ベシ。

第一ニ、何ノ意見ニテモ、世間一統ニ抑壓セラレ、已ヲ得ズシテ緘黙スルヲアリトモ、ソノ抑壓セラル、意見ニ眞確ノ理ナシト云ベカラズ。○モシコレヲ承認セズシテ、抑壓セラル、意見ニ眞理ナシト言バ、コレ自ラ一巳ノ説ヲ謬誤アラズト擅ニ定ムルナリ。

第二ニ、モシ禁制シテ緘黙セシムル意見議論、實ニ迷謬ナルニモセヨ、ソノ中ニ必ズ眞理ノ一分ヲ含有スベシ。故ニコレヲ禁制スルトキハ、ソノ一分ノ眞理ノ世ニ顯ハル、ヲ塞グコナリシカノミナラズ、世間一統ニ流行スルトコ

自由之理第二卷

五十六

ロノ意見議論、何ノ宗門、何ノ學科ニ限ラズ、決シテ眞理ノ全體ヲ盡スモノニアラズ、決シテコノ外ニマタ眞理アラズトハ言ガタシ。故ニソノ眞理ノ殘リテ未ダ顯ハレザルモノハ、タゞ吾意ニ逆フ意見議論、即チ聞慣ザル説ト相抵觸スルニ由テ、世ニ顯ハレ出ルコナリ。コレヲ除キテ外ニ、今マデ缺乏シタル眞理ヲ填補スベキ機會アルベカラズ。

第三ニ、今マデ世上一般ニ定案ト許セル意見、タトヒ眞理ノ全體ヲ具ヘ、一モ欠ルトコロナキニモセヨ。モシ異説ヲ唱ル人ノ精神ヲ振ヒ、氣力ヲ出シテ、コレト相争ハ、ヒノアラザレバ、ソノ定案ノ意見ヲ傳受ル人、タゞ偏執固守スルノミニシテ、ソノ道理ノ根源ヲ理會スル能ハザルニ至ル

ベシ

第四ニ、他人ヨリ、駁争ヲ受ザレバ、ソノ教道ノ意ヲモ失ヒ、或ハ堅固ニ知リ、能ハザルニ至ルベシ。ソノ品行ニ發スルモノ、活潑生動セズ、ソノ守ルトコロノ教條、特ニ外面ノ禮法トナレルノミニテ、善事ヲ作スニ力ナク、中心ノ確知道理ノ實證、及ビ親歷ノ經驗、カクノ如キモノ、生長スルヲ妨グベシ。

意見ノ自由ノ事ヲ論ズル以上、畧備ハルコノ卷ヲ終ルニ臨ミ、今一ツ言ベキモノアリ。凡ソ人、自由ニソノ意見ヲ言出スニ、温和ナル性度ヲ傷ルベカラズ、公平ナル議論ノ限界ヲ過ベカラズ。然レ人多ク當ニ言ベシコノ限界ハ、何ニ

自由之理第二卷

五十七

議論之間  
宜温和公  
平

置ベキトイフヲ、甚ダ定メガタシト。且ツ予思ニ、人誰ニテモ、已ガ論ニ異ナル人ヨリ、強ク排撃セラレテ、已コレニ應答スル能ハザルトキハ、必ズソノ對敵ノ人ヲ、温和ナラズ、公平ナラザルモノト思フベシ。故ニコノ限界ヲ設ルハ、能シ難キノ事ナリ。然ルニモセヨ、彼此議論スル間ニ、温和公平ナルモノヲ存セザルベカラズ。人ノ自己ノ意見ヲ死守シ、固クコレヲ是ナリト言張ルハ、大ナル過失、甚ダ惡キ式法ナリ。ソノ最モ甚シキ過失ニ至リテハ、或ハ巧ニ詐リテ、議論ヲ爲シ、或ハ他人ノ實証アル議論ヲ壓抑シ、或ハ議論スル事理ノ本原ヲ錯リ、或ハ對敵ノ人ノ意見ヲ枉テ、正直ニ言顯ハサル等ナリ。然レニカクノ如キ惡シキ議論ノ

式法世ニ行ハレ卓絶ノ才智アル人ト雖<sup>カウ</sup>モ、恰好<sup>コウ</sup>シタル境地ニ立住シ過甚誣讒ノ論ヲ爲<sup>ナサ</sup>ザルモノ甚ダ稀ナリサリトテ政府ノ律法ヲ以テコノ議論ノ式法ノ事ニ立<sup>チ</sup>入ルハ擅<sup>ホヒ</sup>マハニツノ分外ヲ踰<sup>ユ</sup>ル<sup>ニ</sup>テナホ更<sup>サ</sup>爲<sup>ナシ</sup>得<sup>ル</sup>ベキニアラス。

放逸無<sup>キ</sup>度ノ議論即チ罵詈譏刺ノ語ヲ用フルヲ雙方相互<sup>ニ</sup>戒シメ禁ズルハ當然ノ事ナリ然ルニ世ノ情態ヲ觀ルニ世上一般ニ流行スル意見ニ敵對シテ異說ヲ言フ人ノミヲバ罵詈譏刺ヲ用フルヲ禁ジ公論ニ黨シテ異說ヲ排スル人ニハコレヲ禁ゼザルノミナラス却<sup>ツ</sup>テコレヲ用ルモノヲ譽<sup>メ</sup>テ正經ノ熱心公義ノ憤怒ナドトイヘルハ大

自由之理第二卷

五十八

ナル不公不正ナリ甚シキニ至リテハ流行スル說ニ背ケルモノヲ惡人ノ如ク邪說妄行ノ如クニ譏リ人民ノコレニ聽從スルモノヲ恐<sup>オドロシ</sup>嚇<sup>イマシム</sup>禁戒セリコレニ反シテ流行スル意見ヲ駁<sup>オカス</sup>スル人ハ罵詈譏刺ヲ用ルトキハ反ツテ已ニ跳<sup>ホト</sup>リ返ル<sup>ト</sup>ユエニ大抵ハコレヲ爲<sup>ナサ</sup>ザルノミナラス適<sup>オホト</sup>宜<sup>トキ</sup>ノ言語ヲ用ヒ慎<sup>オカス</sup>ンデ無用ノ冒犯ヲ避<sup>サ</sup>ル<sup>ト</sup>ナリ抑モ真理公道ニ合ヒタル一方ニ於テ他ノ一方ノ說ヲ駁論スルニ自<sup>オカス</sup>ラ禁止シテ責罵ノ詞ヲ用ヒザレバソノ利益タル<sup>ト</sup>更ニ多カルベシ元來コレ等ノ事ハ官府ノ律法權勢ヲ以テ料理スベキ<sup>ト</sup>ニ非ズシテ人民各自<sup>ミ</sup>ラソノ意見ヲ述<sup>ハ</sup>ベ議論ヲ發スル<sup>ト</sup>ナレバソノ式法ノ善惡ヲ察<sup>サ</sup>シテコレヲ判斷

議論之禮法

議論縱破  
禮法猶愈

于無議論

取舍スベシ。蓋シ議論ノ常ニ一偏ニ倚<sub>ル</sub>モノ。假詐ニシテ誠  
實ナラザルモノ。毒惡ノ心アルモノ。執一拘泥ナルモノ。異  
說ヲ容忍スルノ量ナキモノ。コレ皆責メ咎ムベキモノナ  
リ。然<sub>ル</sub>ニ已<sub>レ</sub>ガ說ニ反對スルモノト雖<sub>モ</sub>。敢テ非禮ヲ以テコ  
レニ加ヘズ。心ヲ平<sub>カ</sub>ニシ氣ヲ靜<sub>カ</sub>ニシテ。已<sub>レ</sub>ニ抗敵スル人ノ  
意見ヲ聽<sub>ク</sub>。善<sub>ク</sub>ソノ實ヲ察シ。吾<sub>ガ</sub>非ナリトスルモノヲ駁スト  
雖<sub>モ</sub>。過<sub>ル</sub>甚<sub>ク</sub>ナラス。荒唐ナラス。講<sub>ス</sub>ズルソノ實ニ過<sub>ズ</sub>。他人ノ  
方ニ順便ナル事ヲ言<sub>フ</sub>。モノアリトモ。決シテ一モコレヲ阻  
礙<sub>ス</sub>ル<sub>コト</sub>ナシ。コレヲバ議論ヲ爲<sub>ス</sub>。眞實ノ禮法トスル<sub>コト</sub>  
ナリ。若シ屢<sub>ニ</sub>コレヲ犯シ破ルモノアリ<sub>モ</sub>。予コレニ由<sub>リ</sub>テ。  
サテハ。世ニ許多ノ辯論ヲ好ム人アリテ。或ハコレヲ守ル  
モノ大分ニ居リ。マタコレニ向<sub>ッ</sub>テツノ本心ノマ、ニ爭フ  
モノ。更ニ多ク大數アルニゾト。コレヲ思フモ喜バシカル  
ベシ。  
タトヒ議論禮法ニ背クトモ。  
總體緘黙スルニ勝レル遠シ。

自由之理第二卷

五十九



